

## 膨大な変化がこの惑星に起こりつつある——なぜだろう？

<http://stateofthenation.co/?p=215966#more-215966>

SOTN

March 8, 2024

SOTN 編集ノート：次のビデオ談話は、今日のインターネットの他のどんなものより、なぜ「膨大な変化が地球惑星に起こりつつあるのか」を明確に論じている。そして下に引用された、この長いエッセーからの抜き書きは、なぜ現在の地球文明が、来たるべき「画期的な惑星の変貌」にゆっくりと合わせられているかを、よく説明している。

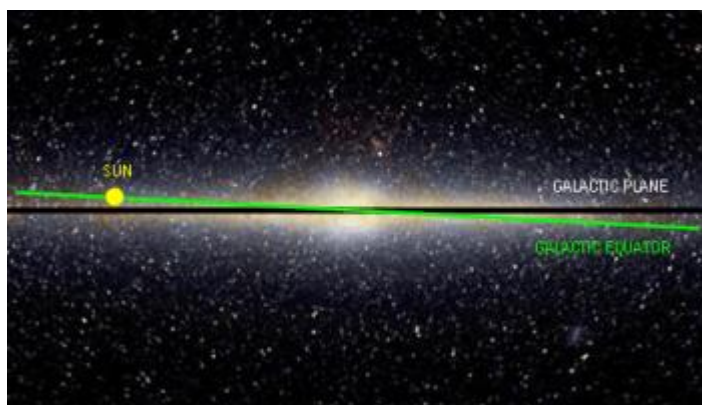


「科学的知識とその応用テクノロジーが、危機的なレベルの進歩に達し、霊的な真理の知識も、道徳的権威による導きも持たなくなったとき、この惑星の文明は、このままの形では存在しなくなるだろう。ひとたびある識閾（限界）が超えられて、科学的探究とテクノロジー発達の、禁止された危険な領域に踏み込んだとき、人類の運命は突如として、永久に変わってしまうだろう。」

——コズミック・コンヴァージェンス研究グループ

<http://cosmicconvergence.org/?p=13>

これまでに経験のない Solar Maximum と Solar Minimum が、冥王星が Capricorn (12 黄道の山羊座) を通過しているときに起こったらどうなるだろうか——？ 地震活動と火山活動 (海底・陸上とも) に、すでに劇的な活動が起こっている。テクノスフィア (人類が地上に生み出し、作り変え、破壊したすべて) の崩壊は大きく加速している。エコシステム全体が回復不能にまでの破壊されるに及んで、生物種全体がこの惑星からいなくなった。地球的な気象変化が、グローバルな温暖化、冷却化、地域的干ばつや大洪水として現れている。そして世界的な経済・財政システムが崩壊の瀬戸際にある——全面的で完全な不可逆的金融メルトダウンと共に。信用する、しないに関わらず、これら現実の出来事と、そのさまざまな結果は、我々の問題のごく一部にすぎない。なぜそういうことが起こるかを説明することにする。

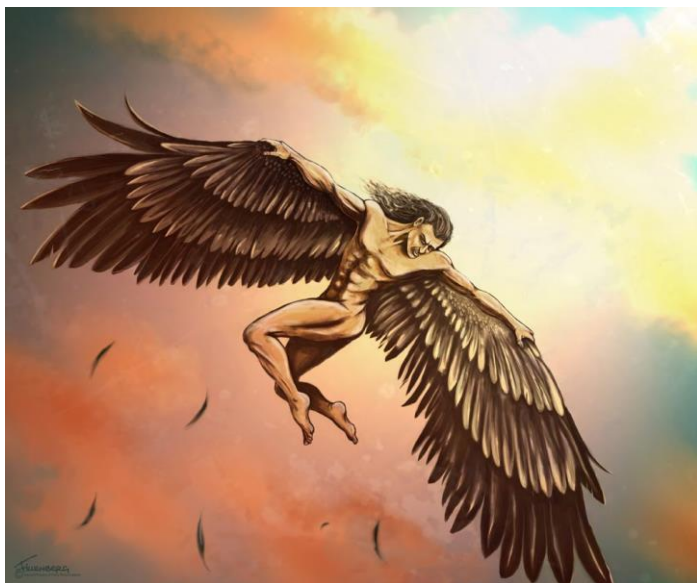


ある種の「前進的」に発達するものと、一か所に収斂するものがあり、それらが地球文明と人類としての、我々の未来の行程を指令しようとしている。この者たちは人種のルーツであり、太陽の周りをまわり始めて、6 番目にこの地球惑星に住みついた者たちである。「加速度的に画期的な惑星の変貌」をもたらそうとする、このものは、他のどんな大きな急変的原因より大きく、その影響は上記の太字の文章に要約される。

実際、何が人類の直近の未来を決めるかといえば、それは科学とテクノロジーが——**倫理的・道徳的考慮を顧みることなく**——歴史的に「神々の領域」内部に入ったものに対し、挑戦をし続けていることである。古代ギリシャ人は、ある非常に鋭い神話的物語を持っていて、それは、この最も深遠で高度な結果を示す予知能力に関連して、人類のために適切な教訓を明瞭に与えることができた。

おそらくイカロスの物語——蠟付けした翼によって、太陽にあまりにも近づきすぎて落ちた物語——は、現在の文明が突進しつつある方向を示す、適切な譬えである。確かにそれは、人間が非常に多くの、テストされていない危険なテクノロジーなど、世界中で使用さ

れている、多くの科学的応用を言い当てている。イカロスの物語が話され続ける間、彼は、思い上がりと盲目の野心、傲慢と無知の、悲劇的神話の好例として役立ってきた。



特定の宇宙論的な自然法則が、なぜ、この惑星に住んでいるそれぞれの人類によって定められ定着したのか、そう考えられる多くの実用的理由がある。地球惑星は孤立して存在しているのではない。それは太陽系の他の天体に関連しており、それは銀河全体についても言える。実は、多くの確認された、また、いくつかのあまりよく理解されていない相互関係が、地球とその惑星仲間の中に存在する。我々のこの青い球体で起こることは、我々が理解するよりはるかに多く他の天体に影響を与え、逆も真である。もちろん占星術の専門家は、我々が当たり前のことを言っているだけだと理解するだろう。

したがって、地球上の科学者が、受け入れ可能な限度を超えて、この球体だけでなく、我々の姉妹惑星にまで影響を与えるやり方を押し進めるならば、そこにブローバック（バックファイア）の効果が起り、それは推測困難であると同時に、避けられないものである。これら他の惑星に住む捉え難い文明は、彼ら自身の運命、彼ら自身のカルマ、人間の影響に邪魔されないで進化する、彼ら自身の権利をもっている。明らかに、こうした介入は、これまでに経験のないほどに増大しているだろう。そしてそれは**靈的に無知で、勝手放題に反倫理的な、科学の成果とテクノロジーの飛躍によるもので、これが現在の人類の所業である。**

こうした事態がいつまでも続くことはできない。しかし、どうしてこういうことが起こるのかを究明する前に、この展開される**コズミック・コンヴァージェンス**を取り巻く、さまざまな意味の層を調べることにしよう。

## まず Cosmic Convergence とはそもそも何か？

Cosmic Convergence とは、多数の出来事や現象の、一点への集中（収斂）のことで、これは徴候や前触れ、確定された傾向や弾道曲線が、すべてに通じて起こり、次にやってくる地球惑星、太陽系、天の川銀河、そして宇宙という、相互浸透する領域に起こることである。「天上で起こることが地上で起こる」As above, so below という言葉が、この規則正しいサイクルで起こることの宇宙的性質を要約している。



それは「画期的な惑星の変貌を加速させる」ことに役立っている。**結果としてのグロテスクに変容する過程が、あまりにも徹底し、その性質が確固としているので、存在する文明は、効果的に現在の形では存在しなくなるだろう！**

しかし、一つの時代から次の時代への大きな動きがすべてそうであるように、この惑星の変貌はゆっくりとしながら確実のようであり、気まぐれに起こって理性をも期待をも混乱させる。

にもかかわらず、あなたが氷山の一角を見てしようと、表面下の氷塊を見てしようと、この宇宙的なコンバージェンスは、生活のすべての相において、またこの地球のあらゆる場所で厳格にそれを感じさせるであろう。

今、この宇宙的ドラマのコンバージェンスの側面を、より詳しく見ていこう。何のコンバージェンスか？

- ・ 古代の暦の並行現象
- ・ 同時的な時代の終末

- ・世界のタイムラインの交差
- ・大きな地球の変化（地震、火山噴火、海岸線）
- ・グローバルな気象変化、すなわちグローバル・ウォーミング
- ・自然環境の/エコロジカルな、不帰のターニングポイント
- ・大気と海洋の転換点
- ・テクノスフィアの崩壊
- ・グローバルなコントロール・マトリックスの瓦解
- ・社会の崩壊ポイント（経済的、政治的、社会的）
- ・文明/文化/宗教の衝突
- ・聖典による預言
- ・科学の予知能力
- ・発光体（天体）の整列
- ・占星術による予言
- ・天文学的諸現象
- ・星座（星位） constellation の配置変化
- ・強化された太陽最大値
- ・大きく変動する太陽系
- ・銀河センターのエネルギー放射

このリストは完全なものではないが、この議論に関する限り、かなり全体的である。(以上)

### [訳者 Greatchain 注]

これはかなり難解な長い論文であり、この翻訳は冒頭の5分の1にすぎない。しかしこれだけで、そこに含まれる重要なエッセンスを読み取ることができると思う。私はこの論文を十分に理解できるとは、どうも思っていないが、もし宇宙全体を扱う科学——地球物理学も、宇宙物理学も、占星術も、倫理学も、宗教も神も、すべてを一つの生きた全体として捉える科学があるとしたら、これがそういうものだと思う。

そして今、地球人全体がそれを求めているように見える。連日、論じられているユーチューバーの議論や忠告を聞いていれば、一つの共通した、せっぱ詰まった問題が浮かび上がる。それは「近いうち（今年中）に、我々の経験したことのない、何か途方もないこと、恐ろしいことが起こる」と言っている。そこには信用できないものもあるかもしれない、救世主的な真剣な警告を発している、耳を澄ますべき人々が、少なからずいる。宇宙と地球規模の変事が、起ころうとしていると言っている。霊的能力などない私の、先日報告した夢でさえその方向を示している。

ここで論じられているギリシャ神話のイカロスの話は、思いがけず深い話であることが分かる。論者が「多くの、テストされていない危険なテクノロジー」と言っているのは、まず何より mRNA「ワクチン」の無謀な実験を指すだろう。これはテストの失敗のようにも見えるが、最初からその計画だったと考えるべきだろう。そうでなければ、わが国で起こった、まるで突貫工事のような一億総ワクチン運動の意味が分からない。それは何だったか？ それはここで言われている「倫理も道徳も顧みることのない科学とテクノロジーの、**神々の領域への挑戦**」だったと言うべきであろう。それが何の咎めもなく無傷に終わるとは、どうも考えられない。

もし我々の住む宇宙が、地球惑星を超えてさらに遠くまで及ぶ、繊細に構築された、生きた神そのものだとするならば、我々のこの傲慢で無神経な生き方が、途方もなく恐ろしい出来事として復讐してくるということが、理論的にも納得できるような気がする。我々は「神を演ずる」とか「神を気取る」といったところを通り越し、「神を滅ぼす」ところまで行っている。にせワクチン事件はその一例にすぎない。

我々は神の創った男女の別を廃止しようとしている。倫理に悖る手段を使って、世界人口を大幅に減らそうとしている。ペドフィリアという神人ともに許さぬ犯罪を、堂々と

行っている。また、おそらく我々の知らぬ暗黒の世界では、クローン人間や怪物人間、ゾンビの実験が行われているだろう。そして核戦争が本気で考えられている。

古代ギリシャ人は hubris と呼ばれる、人間の思い上がり・傲慢を、最大に重い罪として考えた。さらにギリシャ人の叡智に帰すべき、我々にとって重要な宇宙観がある。私はこれをこのブログで、何度繰り返したかしのれないが、さらに繰り返すことにする。

ギリシャ語の holos (全体) という言葉は、それを語源として、英語の whole (全体)、holy (神聖な)、health (健康)、heal (癒す)、wholesome (健全な) などを派生させている。したがって holos という言葉は、これらの英語を、一つにぎゅっと引き絞ったような概念だと考えてよい。これが古代ギリシャ人の宇宙観であった。神聖で、健康で、癒す力をもった全体、すなわち**分断できない一つの神**であった――。

これが、この論者によれば、我々の時代において、科学とその応用テクノロジーの発達によって、思い上がり・傲慢一色に染め上げられ、自らの根源を忘れた犯罪者として、没落の一途を辿ることになった。それは、それだけの悪を行った者の当然の報い、あるいは宇宙論的な**科学的因果**であった。